

日英語の視点

—ケーススタディ—

嶋 村 誠

0

認知言語学では、人間が外界の存在物（目に見えるものも見えないものも含めて）をどのように認知しているか（すなわち理解しているか）という点を重視し、そのような人間の精神作用としての外界認知が反映しているものとしての言語を、研究の直接の対象とする。

認知言語学が生まれる前には、言語と、それによって表現されている事態 (event) との間には直接的な対応関係が見いだされ、それこそが言語の意味であるというような考え方もあった。しかし、人間による外界認知の反映したものという言語観に基づいた研究スタンスに立つと、言語によって表されている事態とは、そこに人間が全く介在していないような存在物ではあり得ない。つまり、人間から切り離された、純粹に客観的な存在物などではなくなってくる。人間が人間であるが故に備えている五感を中心とした身体性やさまざまな経験を基盤として、何通りもあるはずのその事態に対するさまざまな可能な認知のしかた（つまり、見方、把握のしかた、理解のしかた、焦点のあてかた、切り取り方などを全て含めてこのように呼んでおくが）の中から、ひとつの認知のしかたを主体性に基づいて選択した結果が言語に反映しているはずであり、そうしたものが言語の意味にとって重要な位置を占めていると考えられている。また、すべての人間が同じ認知のしかたをすることは限らず、異なる文化圏や言語圏によって認知のしかたが異なっているということがあったと

エクス 言語文化論集 卷下先生退職記念号

しても、全く不思議ではない。

認知言語学ではこのような外界認知のしかたを解釈 (construal) と呼んでいるが、人間による外界認知のしかたにはいくつもの特性がみられる。例えば、事態を捉えるときに何を前景化し何を背景化するか、何が焦点化されて際立ち (prominence) が生まれるか、認知的に際立ちがあまり大きくないために直接言及することが困難な概念に対しては、関連する際立ちの大きい概念にまず言及して、そこから、二段構えでその言及しにくい概念を捉える参照点構造と呼ばれる方法を用いるなど、さまざまな特性がみられる。

1

こうした解釈の際にはたらく特性のひとつに視点 (perspective) と呼ばれるものがある。視点が問題になる場合はいくつかある。例えば、一般に、上下、左右というような空間上の位置関係を捉えたり、あるものの移動を捉えたりするとき、主体である話し手の視点の取り方によって、つまり何を基点にするかによって、解釈が異なってくる。例えば、鼻と口の位置関係は、鼻を基点にすれば、

(1) 口が鼻の下にある

と解釈されるが、口を基点にすれば、

(2) 鼻が口の上にある

と解釈される。このように、上下の位置関係を捉える場合には、何を基点にするかによってお互いの相対的な位置関係が決定されるわけであるから、基点の置き方が異なれば解釈も異なり、それにしたがって異なった言語表現を用いることになる。客観的にみればこれらふたつの文が表している事態の間に鼻と口の物理的移動が

あったわけではなく、同じひとつの状況でも視点を変えることによって異なった解釈がなされ、その結果、異なる言語表現が可能になるということである。¹⁾

また、

- (3) a. My bike is near the city hall.
b. The city hall is near my bike.

(3a) と (3b) はどちらも同じ状況を描写したものであるが、(3a) は the city hall を地とし my bike を図として捉えた表現であり、(3b) は逆に my bike を地とし the city hall を図として捉えた表現である。つまり、両者の間では視点の取り方に相違がみられるわけであるが、(3b) をやや不自然と感じる英語の母語話者は少なくないであろう。

(3b) をやや不自然と感じるのには、さまざまな要因が関係していることが考えられるが、少なくとも次のように、われわれ人間の知覚という認知活動がもつ特性と英語の構文上の特性との絡み関わっているのではないかと考えられる。まず、われわれ人間にとって、「市庁舎」のように大きくて移動しないものは知覚の上で認知的際立ちが低く感じられ、地になりやすい性質を備えているが、それと比較すると「私の自転車」は、小さな移動するものであることや、「私のものである」という特性によって知覚の上で認知的際立ちが高く感じられ、図になりやすい性質を備えている。また、文法上の主語は他の文法項とくらべると認知的際立ちが高く、従って統語上は図の働きをしやすい文法項であり、他の文法項は主語よりも認知的際立ちが低いため、統語上は地の働きをしやすい文法項である。そこで、(3a) においては、知覚という認知活動上の特性である認知的際立ちの高い my bike が統語上の認知的際立ちの高い主語の位置にある。それゆえ、(3a) はこれら2つの特性の間に矛盾がないために自然に感じられる。それに対して、(3b) においては、知覚という認知活動上の特性である認知的際立ちが低い the city hall が、認知的

1) 視点については、Langacker (1987, 1988, 1991a, 1991b) や Taylor (2003) が参考になる。

エクス 言語文化論集 卷下先生退職記念号

際立ちが高い my bike をさしおいて統語上の認知的際立ちの高い主語の位置にきており、2つの特性の間に矛盾が生じるために不自然に感じられるのではないかと考えられる。

このように (3a) と (3b) の場合には、どちらも同じ状況を描写していながらも、視点の取り方の違いが、図と地の関係から、文の自然さ、不自然さにつながっていると考えられるわけである。

このように、認知言語学では外界認知における傾向性をとらえることが重視されるが、先行研究のなかで日英語の視点の違いをも視野に入れた研究スタンスがみられるのは、必ずしも狭義の認知言語学に属するものだけにとどまらない。國廣 (1982)、池上 (1981)、影山 (1996, 2002) や、卷下 (1997, 2000, 2001) を初めとする卷下氏の表現文法、表現構造に関する一連の著作物にも日英語の視点に関連する興味深い洞察がみられる。

2

個人的な回想になってしまうが、英語の学習段階において off limits という表現に遭遇したことがあった。その時点ではその表現の意味を知らなかった。そこで、すでに自分が持っていた知識を総動員して、「limits は制限という意味であるから、それに off がついた off limits は『制限がはずれている状態』つまり『自由』という意味ではないか」と推測した後に、辞書を引いて意味を確かめてみた。果たして、その推測は全くはずれており、off limits は「自由」という意味になるかと思うと、実は、むしろその真反対であって、「立入禁止」を意味する表現であることを知り意外に思ったことが思い出される。その後、英語の授業を担当するようになってからも何度かこの表現に接した。そしてそのたびに受講生に意味を推測するように促してみるのだが、ほとんど例外なく、ありし日の筆者と同様の間違った推測をしたという返答が返ってくる。

なぜこのような判で押したような返答が返ってくるのであろうか。以下では、そ

の原因を探ってみたい。そこで手がかりとして、まず、英語の *limit* と日本語の「制限」がどのような意味で用いられる語なのか、辞書を頼りに探ってみよう。信頼度を高めるために複数の辞書を用いることにするが、(4) は、*Longman Dictionary of Contemporary English*, 4th ed. (以下 LDOCE⁴ と略す) から、また、(5) は、*Oxford Advanced Learner's Dictionary of Current English*, 7th ed. (以下 OALD⁷ と略す) から、名詞としての *limit* について、定義の部分を引用したものである。また、(6)-(8) は、「制限」の定義をそれぞれ、『広辞苑』、『使い方の分かる類語例解辞典』、『例解新国語辞典』から引用したものである。

(4) **limit** *n* [C]

1 ► **GREATEST/LEAST ALLOWED** ◀

the greatest or least amount, number, speed etc that is allowed

2 ► **GREATEST AMOUNT POSSIBLE** ◀

also limits

the greatest possible amount of something that can exist or be obtained

3 ► **PLACE** ◀

also limits

the furthest point or edge of a place, often one that must not be passed

(LDOCE⁴)

(5) **limit** *noun*

1 **limit (to sth)** a point at which sth stops being possible or existing

2 **limit (on sth)** the greatest or smallest amount of sth that is allowed

3 the furthest edge of an area or a place

(OALD⁷)

(6) 【制限】

限界・範囲を定めること。また、その限界・範囲。「年齢-」「給水-」「速度-」

(広辞苑)

(7) 【制限】

ある範囲を決めて、その中にとどめること。

(使い方)

(8) 【制限】

一定の範囲をきめて、それをこえることを許さないこと。また、その範囲。

(例解)

これらの定義について考察する前に、確認しておかなければならないことがある。それは本稿の最初にも述べたことであるが、一般に、同じ事態に対しても可能な認知のしかたが幾通りもあり、その中からひとつの認知のしかたを話者の主体性に基づいて選択した結果が言語に反映しているはずである。例えば、200ml 入りの計量カップに水が入っていて、水の表面が目盛りの 100ml の位置にあるとき、入っている水に注目して「水が半分入っている」と認知することもできるが、場合によっては空になった部分に注目して「水が半分減っている」あるいは「水が半分しか入っていない」などと認知することも可能であり、その場における話者の都合に応じた認知や表現が選ばれるはずである。一般に、文化や言語を異にするふたつの地域においても、そこに住んでいるのが人間である以上、同じ事態が存在しているというような場面はいくらでもみられるであろう。そうした同じ事態に対して、いくつかの選択肢の中からどれが選ばれるかはその時々状況によって、あるいは個人によってまちまちの場合もあれば、ある特定の文化圏や言語圏では特定の選択肢がきまって選ばれるというような傾向性があっても不思議ではない。

以上のことに留意しながら (4)-(8) の定義に立ち返ろう。英語の limit と日本語

の「制限」という語については、いずれも何らかの範囲を定める境界・限界が関与していると思われるが、(4) (5) の定義には先ほど述べたような間違っただ推測の原因を追究するうえで注目すべき特徴的なことが含まれている。それは、英語の limit という語は、量・数・スピードなどについて、許されている最大（あるいは最小）の範囲はどこまでかということの意味したり、あるいは可能な最大の範囲のことを意味したりするポジティブな、プラスの方向性を伴った概念であって、決して、許されない範囲を示したり、不可能な範囲を示すようなネガティブな、マイナス方向の境界のことを意味しているのではないということである。もちろん、許される範囲を定めるということは、見方を変えれば、許されない範囲を定めることでもあるはずである。しかし、英語の limit という語においては、話者が許される範囲の側に視点をおいて、許される範囲がどこまで伸びているのかという捉え方をしているということである。

このことは辞書にみられる off limits の定義からさらに明らかである。

(9) off limits

- a) beyond the area where someone is allowed to go
- b) beyond what you are allowed to do or have

(LDOCE⁴)

この定義に beyond という語が用いられていることに注目しておきたい。beyond という語は、話者の側からみてある位置、範囲、限界を超えた向こう側を指す概念であるが、この定義に beyond という語が用いられているところからも、limit という語は、許される範囲の側に視点を取って、どこまでの範囲かを示す概念であって、off limits というのはそこからみてその先にある許されない範囲のことを意味しているということが確認できよう。

ところで、何らかの範囲を定める境界や限界は、なにも英語文化圏だけに必要とされる概念ではないはずである。もちろん日本語文化圏においても、量・数・スピー

エクス 言語文化論集 卷下先生退職記念号

ドなどについて、許される範囲と許されない範囲の境界を定めたり、あるいは可能な最大の範囲と不可能な範囲の境界を定めたりすることも生活のなかで必要とされることがらである。つまり、何らかの範囲を定める境界や限界については英語文化圏においても日本語文化圏においても同じ事態が存在する。問題は、その同じ事態をどのように知覚し、認知し、言語化するかということである。

そこで、今度は日本語の「制限」についての定義 (6)-(8) をみると、英語の limit とはむしろ逆に、許される範囲の外に視点をおいて、許される範囲をどこまでに抑制するかということの意味することが多い語であり、そのことは「年齢制限」「給水制限」「速度制限」などの例からも窺える。つまり、範囲の定め方がネガティブな、マイナス方向を指向しているということが言えるであろう。例えば、「給水制限」という場合、現在の給水量を 100% とすると、それを抑制して何%にまで減らすかというマイナスの方向性を伴ったことを意味するのであって、何%まで給水することが許されるかその範囲を定めるといようなポジティブな視点が伴っているわけではない。

これまで limit の意味について考察したことを、実例を観察しながら確認しておこう。いずれの実例においても、英語の limit は定められた範囲の内側からの視点に支えられて、どこまでが許される範囲、あるいは可能な範囲であることを示しているのであって、範囲の外から抑制する方向性を伴っているのではないと考えられよう。以下の例に添えた日本語訳には、「制限」という語を用いたものは見あたらない。これは limit と「制限」のあいだに、本稿で考察したような意味上の違いがあることの間接的な裏付けと考えることも可能であろう。

(10) a. There were limits, after all, to the number of things a Prime Minister could become involved in personally, and with so much else... (IHP 117)

b. 結局一国の首相がみずから処理できる問題の数には限りがあるし、ましてやいまはほかに山のような問題を (永井訳 160-161)

- (11) a. But nearing the city limits after a particularly savage cornering, she touched Richardson's arm. (IHP 212)
 b. だがとくに乱暴なコーナリングのあとで市の境界線に近づいたところで、とうとう我慢しきれなくなってリチャードソンの腕に手を触れた。(永井訳 296-297)
- (12) a. There was a limit to compromise, even here. (IHP 154)
 b. この期に及んでも妥協には限度があった。(永井訳 214)
- (13) a. Then he continued, 'As I was about to observe, although there is a time limit involved, namely the question of the ship's departure, this must not interfere in any way with a matter of individual justice.' (IHP 222)
 b. そしておもむろに言葉を続けた。「わたしがいおうとしたのは、たとえば時間的リミット、すなわち船の出航の問題があるにせよ、個々の裁判がそれによって妨げられてはならないということです」(永井訳 310)

次に、off limits についても実例を眺めておこう。

- (14) The king penguins, biggest in size and slowest to mature, moved into the crèche area (off limits to visitors, but just behind the main penguin pool) until they, too, had fledged, and they were put on public display during the summer. (BNC)
- (15) The mortuary is off limits. (BNC)
- (16) Bridlepaths and tracks are shared happily with walkers; footpaths are, of course, off limits to bikers. (BNC)
- (17) She has also been told that she must not remain in the room after 11:30pm and that the campus is off limits for her 18-month-old miniature dachshund. (BNC)

エクス 言語文化論集 卷下先生退職記念号

- (18) Consequently there is no topic that is off limits for discussion, even if a few are off limits for experimentation. (BNC)
- (19) What finally decided her to accept was his ready agreement to her one condition, that a shipboard romance was definitely off limits. (BNC)
- (20) “The rest is private, strictly off limits.” (BNC)
- (21) People’s reaction to loss remains one of society’s least understood and most off limits topics for discussion. (BNC)

例えば、(14)における off limits は、visitors の側からみて、つまり接近が許される範囲の方に視点をおいてその範囲の外側を指している。(18)-(20) のように off limits が目に見えない抽象的な範囲を意味する場合であっても、また、(21) のように形容詞的に用いられた場合にも同様である。

先に述べたように、かつて英語の off limits の意味を推測したときに、limits は「制限」という意味であるから off limits は「自由」という意味になるかと思うと、実は「禁止」という全く逆の意味内容であり、予測を間違えてしまった。英語の limits と日本語の「制限」においては、ここまではいい、これ以上はいけないという範囲を定める方向性が、英語はプラス方向であるのに対して日本語は逆にマイナス方向であるということを考え合わせると、これが間違った予測を引き起こした主たる要因であろうと考えられる。

英語の off limits の意味を推測するときに日本語の「制限」という語を手がかりにしたこと自体に問題が全くないとは言えないであろう。しかし、英語に speed limit という概念がある一方で、それに関連して日本語にも「制限速度」とか「速度制限」という概念があるところをみると、予測者に limit と「制限」が同様の事態を描写する表現であるとの前提を持たせるには十分な動機があると言わざるを得まい。

3

以上、英語と日本語の視点 (perspective) についてのケーススタディとして、英語の off limits という表現の意味を知らない日本語話者が、その意味を推測しようとしてまったく逆の意味を考えてしまいやすいのはなぜか、ということについて考察した。その結果、off limits の意味を推測しようとするとき、日本語の「制限」という語の意味を手がかりにして考えた場合、これら2つの語の意味に付随する視点の方向性が、英語と日本語のあいだでプラスの方向とマイナス方向という全く逆の方向を向いていることに起因していると考えられるという結論を得た。

一般に英語と日本語ではさまざまな場合に肯定と否定が逆になる言語現象がみられることは、これまでも多くの先行研究によって明らかになっている。²⁾ 巨視的にみれば、英語の limit と日本語の「制限」という語がもつ視点の方向性についての違いも、それらの先行研究とどこかで繋がっていることが考えられるが、日英語を比較して肯定と否定に関する全体のしくみについての検討は、今後の課題としたい。

引用文献と略号

- BNC: The British National Corpus. Shogakukan Corpus Network を経由して利用。
- IHP: Arthur Hailey. 1961. *In High Places*. Pan Books.
- 永井訳: 永井淳訳. 1979. 『権力者たち』新潮文庫。
- 例解: 林四郎 (編集代表). 1999. 『例解新国語辞典』第5版. 三省堂。
- LDOCE⁴: *Longman Dictionary of Contemporary English*, 4th ed. 2003. Pearson Education.
- OALD⁷: *Oxford Advanced Learner's Dictionary of Current English*, 7th ed. 2005. Oxford: Oxford University Press.
- 広辞苑: 新村出編. 1998. 『広辞苑』第5版. 岩波書店。
- 使い方: 小学館辞典編集部編. 1994. 『使い方の分かる類語例解辞典』小学館。

2) 例えば、國廣 (1982) など。英作文の教本にも同じ趣旨のことが記されていることが多い。

参考文献

- 池上嘉彦. 1981. 『「する」と「なる」の言語学—言語と文化のタイポロジーへの試論—』大修館書店.
- 影山太郎. 1996. 『動詞意味論—言語と認知の接点—』(日英語対照研究シリーズ 5) くろしお出版.
- 影山太郎. 2002. 『ケジメのない日本語』(もっと知りたい!日本語) 岩波書店.
- 國廣哲彌. 1982. 「総説」國廣哲彌編, 1982. 『発想と表現』(日英語比較講座第4巻) 大修館書店. 1-31.
- Langacker, Ronald W. 1987. *Foundations of Cognitive Grammar, Vol. 1: Theoretical Prerequisites*. Stanford: Stanford University Press.
- Langacker, Ronald W. 1988. "A Usage-Based Model." In Brygida Rudzka-Ostyn, (ed.), *Topics in Cognitive Linguistics*. John Benjamins. 127-161.
- Langacker, Ronald W. 1991a. *Foundations of Cognitive Grammar, Vol. 2: Descriptive Application*. Stanford: Stanford University Press.
- Langacker, Ronald W. 1991b. *Concept, Image, and Symbol: The Cognitive Basis of Grammar*. (Cognitive Linguistics Research 1) Berlin: Mouton de Gruyter.
- 卷下吉夫. 1997. 「翻訳にみる発想と論理」中右実編, 『文化と発想とレトリック』(日英語比較選書) 第1巻, 1-91. 研究社出版.
- 卷下吉夫. 2000. 「日本語にみる始点重視の発想」『eX エクス—言語文化論集—』創刊号: 1-24. 関西学院大学経済学部.
- 卷下吉夫. 2001. 「『行く』と Come の対応関係」『言語と文化』4: 27-44. 関西学院大学言語教育研究センター.
- Taylor, John R. 2003. *Linguistic Categorization*. 3rd ed. Oxford: Oxford University Press.